vinetur

2026年上半期、アンゴラがポルトガル産ワインの輸出先で数量首位に

アンゴラ向け出荷は2,050万リットルに達し、12.6%増加。金額ベースではフランス向けが9.3%、米国向けが11.89%減少した

2026年11月11日（水）



Organización Interprofesional del Vino de Españaの経済情報サービスが11月10日火曜日に公表した報告書によると、2026年上半期、ポルトガル産ワインの輸出動向に変化が見られた。フランスと米国向けは金額ベースで減少した一方、アンゴラ向けは出荷量が伸びた。

金額ベースでは、フランスが引き続きポルトガル産ワインの最大の輸出先だったが、2025年上半期比で9.3%減少し、4,610万ユーロとなった。米国は同じ期間に前年同期比11.89%減の4,070万ユーロで、金額ベースの2位だった。

数量ベースでは、2026年上半期にアンゴラがポルトガル最大の輸出市場となった。アンゴラ向け出荷は前年同期比12.6%増の2,050万リットルに達した。フランスは1,480万リットルで2位とな

り、7.7%減少した。

報告書によると、ブラジルは数量、金額の両面でポルトガル産ワインの輸出先として3位だった。ブラジル向け出荷は3.6%増の1,290万リットルとなった。

この数字からは、ポルトガル産ワインの主要な収益市場と、出荷量の多い市場が明確に分かれていることが分かる。金額ベースではフランスと米国が引き続き上位を占めたものの、いずれも減少した。対照的に、アンゴラは数量で首位となり、成長を記録した。金額ランキングでは首位に届かない一方で、より多くの量を受け入れる市場の需要が強まっていることを示している。

この変化は、ワイン生産者、輸出業者、輸入業者、販売業者にとって重要だ。既存市場が弱含む一方で、別の輸出先が拡大する状況を浮き彫りにしているためだ。飲料業界全体にとっても、成熟市場での販売を維持しつつ、出荷量が伸びている国への展開を多角化する必要性を示している可能性がある。こうした動きは、ワインおよび関連飲料の取引チャネル全般で、輸出計画や商品構成、営業上の優先事項に影響を及ぼし得る。

公表された資料の抜粋には、2026年上半期のポルトガル産ワイン輸出総額は記載されていなかった。また、フランスと米国で実績が落ち込んだ理由や、アンゴラとブラジルで増加した理由も詳述されておらず、ワインのカテゴリー別の内訳も示されていない。

それでも、2026年上半期の輸出先ランキングは、ポルトガルの輸出市場ごとに異なる動向があることを示している。金額と数量が減少したにもかかわらず、フランスはポルトガル産ワインの販売において依然として重要な市場だった。米国も、フランスを上回る減少率となったものの、金額ランキング上位を維持した。出荷量で首位に立ったアンゴラと、数量・金額の両面で順位を上げたブラジルの存在は、ポルトガルの輸出業者が成長を単一の市場タイプに依存していないことを示唆している。

ワインやその他のアルコール飲料の貿易動向を追う企業にとって、こうした変化は、ポルトガル産ワインがどの市場で価格を維持し、どこで出荷量を伸ばしているのか、また2026年の進展に伴い、どの市場で営業戦略の見直しが必要となる可能性があるのかを、より詳しく把握する手がかりとなる。